

1人1台端末の利活用に係る計画 ～ 大分県学校教育情報化推進計画「教育DX推進プラン2025」より ～

1. GIGA1期から見えてきた実現を目指す学びの姿

これまでの課題として、1人1台端末の活用が進む中で、ICTの活用が目的化し、授業の本質である「資質・能力の育成」が十分に実現されていない場面があった。急速に進化する情報技術に対応するため、児童生徒の情報活用能力の向上が急務。特に、データの利活用や生成AIなどの先端技術を効果的に活用した教育の推進が求められている。また、情報発信による影響や権利に対する理解を深め、情報モラルやデジタル・シティズンシップの教育を強化する必要。これらを踏まえ、目指す学びの姿として、児童生徒が情報を正しく活用し、社会に貢献できる力を育むことが重要。

2. 端末の活用推進

(日常的な活用場面として以下の場면을想定)

- ・児童生徒が自分で調べる場面
- ・児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面
- ・教職員と児童生徒がやりとりする場面
- ・児童生徒同士がやりとりする場面
- ・児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面

(取組)

- ・端末の整備・更新を行い、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持
- ・GIGAスクール構想を継続実施し、授業や家庭学習での端末活用を促進
- ・学習支援システムの効果的な活用と遠隔教育、他校との交流強化
- ・希望する不登校児童生徒への支援のための活用を推進(遠隔)
- ・外国人児童生徒に対する学習支援活用(遠隔・生成AI等)
- ・障がいのある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じた活用

3. 情報活用能力の育成

- ・プログラミング教育の充実(小学校から高校まで)
- ・情報モラル・セキュリティ教育強化

4. 環境整備

- ・安定したICTネットワーク(Wi-Fi)を整備
- ・デジタル教材の普及(教科書や文化財の活用)

5. 教員の指導力向上

- ・ICT活用指導力を高めるための教員研修強化

【 参考：教育DXに係る当面のKPI(文部科学省) 】

K P I	✓ 当該年度にICT研修を受講する教員の割合 73.0%(R4)→100%(R6)
	✓ 教師のICT活用指導力の向上 ①授業にICTを活用して指導する能力 78.1%(R4)→100%(R7)
	②児童生徒のICT活用を指導する能力 79.6%(R4)→100%(R7)
	✓ 情報通信技術支援員(ICT支援員)の配置 5.7校/人(R3)→4校/人(R7)
	✓ 端末を週3回以上活用する学校 小：90.6%(R5)→100%(R8) 中：86.5%(R5)→100%(R8)
	✓ デジタル教科書を実践的に活用している学校の割合 40.5%(R4)→80%(R8)→100%(R10)

【参考：「教育DX推進プラン2025」目標指標より(大分県教育委員会)】

指標名	基準値	目標値
	R5 (実績値)	R9
授業でICT機器をほぼ毎日使用している小・中学校の児童・生徒の割合(%)	26.4	55
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたICT機器を週3回以上使用させた学校の割合(%) (小中学校)	—	70
1人1台端末を家庭学習に利用している割合(%) (高等学校)	72.1	80.0
教員が学習支援ツールを活用して授業を行っている割合(%) (高等学校)	—	80.0
遠隔教育を活用している受信校数(数) (高等学校)	—	28
タブレット型端末を生活で活用している幼児児童生徒の割合(%) (特別支援学校)	32.5	40